

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区のエ育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日(火)

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成する。

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立源氏前小学校

国 語

(1) 概要

「読むこと」に関する問題の正答率は全学年、区と同程度もしくは上回る結果となった。高学年は文章の記述や表現に課題があることが分かった。また、漢字の習得は学年にまたがる課題である。

(2) 具体的な課題と課題解決のための方策（取組指標）

学年	課題	課題の要因	方策
3 年 4 年 5 年	漢字の書き取り	○進出漢字を習得するプロセスが作業的である。 ○定着にかける学習時間を十分に確保できていない。 ○活字を書く機会の減少。	○漢字学習を作業化させない指導の工夫。ミニテストや文章作りを定期的に行い、成果を可視化する。 ○既習漢字を日々の学習でも使い続けられるよう、指導を積み重ねる。 ○ミライシードの AI ドリルを活用。隙間時間を使い、繰り返し学習する機会を設ける。 ○朝学習における「ことのは」の徹底、家庭学習で反復して知識の習得を図る。
2 年	物語文の読み取り	○時間の流れや場面の転換と、人物の心情に着目する経験が足りない。	○教科書巻末資料『言葉の宝箱』を活用し、感情を表現する語彙を増やしていく。 ○主人公を中心に考え、『いつ、どこで、誰が、何をした』をもとに物語の全体像を掴めるように指導方法する。
4 年	文章の構成	○文章構成における指導内容の確実な定着がはかれていない。	○『はじめ』『中』『終わり』の例文や型を基に構成を意識して文章を書く機会を設ける。 ○「対比」・「要旨」・「根拠」・「推論」など、学年で身に付けなければいけない指導事項を確実に指導する。
5 年	相手の意図を読み取る	○インタビューやアンケートなど、他者を意識した活動の不足している。	○発問を一問一答で完結させず、学級全体の対話につなげ、課題を自分事として考えられるように指導する。 ○対話を促すために思考ツールを活用する。グループワークやインタビュー活動を意図的に取り入れ、対話する機会を増やしていく。
6 年	作文	○文章構成を意識して書く機会が足りていない。	○国語科のみならず、各教科のパフォーマンス課題や単元一体型の振り返りシートなどを活用し、考えをまとめ、分かりやすく表現する機会を増やす。

社 会

(1) 概要

社会科の平均正答率は、全学年で目標値を上回り、昨年度と比較して4年生・6年生の正答率が上昇した。

昨年課題として上げた「語句の定着」は改善が見られる一方、今年度は「資料の読み取り」が4年生、5年生の課題として上げられる。複数の資料や情報量が多い資料に対して、何を問題で聞かれているのか分からなかったことが考えられる。また、資料を読み取り、表現する問題に対しては、無回答が2割を超えるものがあるため、丁寧な資料の読み取りが回答率向上の鍵といえる。

(2) 具体的な課題

学年	具体的な課題	課題の要因	対策
4年	資料の読み取り	○複数の資料を同時に読み取る経験が足りない。	○複数の資料について、最大値や最小値、グラフの形などを分析し、表に表して見比べることで同異点を学級全体で確認し、文章で表現させていく。
5年	資料の読み取り	○情報量が多い資料を読み取る技能が身につけていない。	○学習で扱う資料について、クイズにしたり、教師が出す問いに答えたりする活動を通して、必要な情報を的確に読み取る習慣を身に付けさせる。
6年	語句の定着	○重要語句や関連語句についての知識・理解が定着していない。	○語句と語句の関係を思考ツールで表したり、複数の語句を用いて文を作成したりすることで、1つ1つの語句への理解を高めることができるようにする。

算 数

(1) 概要

6学年のみ、全ての領域で目標値を超えている。3学年と2学年は教科全体で目標値に届いていない。
学年にまたがる課題となる領域は、5学年以下では、「図形」「記述」、4学年以下では「思考・判断・表現」である。特に3学年は「測定」における正答率が低く、中でも「時刻と時間」の学習定着に課題がある。

(2) 具体的な課題

学年	具体的な課題	課題の要因	対策
2 年	大きな数	○100 までの数の系列を思い浮かべることができない。	○フラッシュカード、百玉そろばんを活用して、集合値の復習や数の構成概念の定着を図る。
3 年	時こくと時間	○ある時刻から一定時間後の時刻を求めることができない。 ○1時間=60分をもとにして、時間を求めることができない。	○授業の最初に、時計の模型を活用した反復練習を行う。短針・長針の針の位置を視覚的に慣れさせ、一定時間後の針の動きや時刻が求められるようにする。 ○授業の中で、日常から時間を意識した呼びかけや活動を行う。1時間=60分をもとにして時間を求める問題を解き、習熟を図る。
4 年 5 年 6 年	図形の作図	○体験的に学んでいないため、図形の性質の理解ができていない。	○活動を通して図形を学ばせる。例えば、実際に長さを測定し、およその面積を図る問題を作らせる。 ○折り紙、模様づくり等で図形を切り取ったり、折ったり、貼り合わせたりすることで、形の性質を感覚的に把握する機会を増やし、楽しみながら習熟する場面を設定する。 ○実生活に結び付けて考えさせる。当番表の作成など生活と結び付けて活用させる。
	算数的な思考力	○状況を思い浮かべ、図として捉えられない。	○思考の道筋を板書で可視化する。 ○発達段階に合わせ、図やテープ図、表や数直線と数式を図で示す指導の充実を図る。 ○提示された図・テープ図・表・数直線と、数式を結び付けて考え、表現できる機会を増やす。

理 科

(1) 概要

学校全体として、学年が上がるにつれて目標値を上回る項目が増える傾向にある。そのことから、4 学年は理科的な問題解決のパターンに慣れていないことが推測される。また、どの学年も理科の授業への興味関心はあるため、体験と知識の関連付け、定着を図っていくことが重要である。

(2) 具体的な課題と課題解決のための方策（取組指標）

学年	課題	課題の要因	方策
4 年 5 年 6 年	基礎基本の定着	○観察・記録・体験活動が足りない。 ○栽培活動や継続的な観察記録の蓄積がされていない。	○校庭がない環境下でも、自然事象や生き物に触れる環境を積極的に作っていく。今年度は小屋上のスペースを有効活用して、各学年で植物の栽培活動を行っている。 ○身近な自然事象を教師が日常の中から提示することによって、学習と実生活との結び付きに気付けるようにしていく。 ○【問い→仮説→実験→考察→結論】と問題解決の流れを意識できるように板書や学習カードを工夫していく。
4 年 5 年	理科的用語の習得や実験器具の正しい扱い方	○自然現象と用語や器具の使い方の関連付けが弱い。	○日常的に、実験器具に触れられる環境を整備し、学びにアクセスする機会を意図的につくる。 ○用語や事象の定着度を確実にするために、単元末では説明活動やレポート作成に取り組み、活用する機会を増やす。

英 語(6 年生)

(1) 概要

「聞く・読む・書く」のどの領域においても、目標値に達し全国平均を上回っている。この結果から、学習の理解、内容の定着は良好であるといえる。しかし、自分や身近な人を紹介する(名前や誕生日など)英作文の問題に限っては、目標値を下回る結果となった。

(2) 具体的な課題と方策

具体的な課題	課題の要因	方策
聞くこと ・単語や表現の意味理解 ・アルファベットの読み	○アルファベットと読み方が結びついていない。	○似ている音を意識しながら、語頭の音を聞き取る練習をする。その際に、ピクチャーディクショナリーの単語を聞くなど、タブレットを活用し、楽しく反復練習を行うことで定着につなげる。
書くこと ・自分のことについて ・英文の完成・英作文	○身近な英単語の意味理が不足している。 ○単語と例文を使った活動は、別々の時間に学習していることが多い。 ○4領域の中でも、「書く」の理解につなげていく時間が確保できていない。日常生活や経験を学習内容と結び付け、聞いたり書いたりする力が弱い。	○いろいろな例文に触れて、主体的に取り組めるよう、「目的・場面・状況」を設定する。音声で慣れ親しんだ単語や表現を使って、読んだり書き写したりする学習活動を意識して取り入れる。 ○JTEと連携し、ワークシートやタブレット教材を各学年で取り入れる。 ○日常生活の中で使う様々な単語に触れ、意味を知り、読み方や発音の練習を何度も繰り返す。 ○授業の初めの時間を活用して、既習の単語や表現を使った会話練習などで定着を図る。 ○発表のゴールに向けて相手を意識して伝える活動を確保する。